

Resonant Painting:

観覧料：一般 900(720)円、大高生 450(360)円
()内は20名以上の団体割引料金
*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、群馬県民の日(10/28)に観覧される方は無料

宮城県美術館コレクション

Masterpieces in the Miyagi Museum
of Art Collection
— from Kandinsky and Takahashi Yuichi to Gurali

主催 群馬県立近代美術館、宮城県美術館、朝日新聞社
協力 カトーレック株式会社



ウラジミール・カフタインスキー『E.R.キャンベルのための置画No.4の置作(カーニバル)』1914年

カンディンスキー、
高橋由一から具体まで

開館時間 午前9時30分～午後5時
入館は午後4時30分まで
休館日 毎週月曜日(ただし9月15日、10月13日、11月3日は開館)
9月16日(火)、10月14日(火)、11月4日(火)

響きあう絵画

2025 9.13 SAT — 11.9 SUN

群馬県立近代美術館
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA



響

開催内容

1981年、仙台市に開館した宮城県美術館は、明治から昭和に至る充実した絵画作品を収蔵しています。本展では、コレクションの原点である高橋由一をはじめ、萬鉄五郎や松本竣介など近代美術史の指標ともなる作家の作品を展示するほか、戦後の抽象画、関西の前衛グループ「具体」の作家の作品などにより、熱気に満ちた激動の時代を浮かび上がらせます。一方、海外作家では、カンディンスキー、クレーらドイツ表現主義の画家たちの優品が美術館の個性を豊かに形成しています。さらに、エッセイ「きまぐれ美術館」で知られる洲之内徹が残した「洲之内コレクション」は、多くの美術ファンを魅了し続けています。大規模改修工事のために休館中の宮城県美術館のコレクションは全国各地を巡回し、この秋、当館の展示室に勢ぞろいします。

コレクションの原点
高橋由一からはじまる
日本近代洋画



高橋由一《宮城県庁門前図》1881年

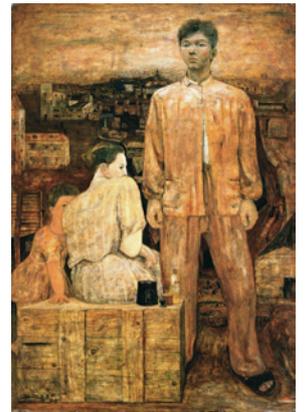
カンディンスキーとの出会い、
そしてドイツ表現主義



ヴァシリー・カンディンスキー《ERキャンベルのための壁画No.4》の習作 (カーニバル・冬) 1914年



海老原喜之助《ボアソニエール》1935年 洲之内コレクション



松本竣介《画家の像》1941年

生涯手放さなかった
画商の愛蔵品、
洲之内コレクション

戦後美術の展開と
具体美術協会



桂ゆき《婦人の日》1953年



長谷川溝二郎《猫》1966年 洲之内コレクション

※いずれも宮城県美術館蔵

Resonant Painting: 宮城県美術館コレクション
Masterpieces in the Miyagi Museum of Art Collection
— from Kandinsky and Takahashi Yuichi to Gutai
カンディンスキー、高橋由一から具体まで

響

開催概要

展覧会名 響きあう絵画 宮城県美術館コレクション カンディンスキー、高橋由一から具体まで

Resonant Painting: Masterpieces in the Miyagi Museum of Art Collection
-from Kandinsky and Takahashi Yuichi to Gutai

会期 2025年9月13日(土) - 11月9日(日)

休館日 毎週月曜日(ただし9月15日、10月13日、11月3日は開館)、9月16日、10月14日、11月4日(火)

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

会場 展示室1

観覧料 一般900(720)円、大高生450(360)円

* ()内は20名以上の団体割引料金

* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、群馬県民の日(10/28)に観覧される方は無料

主催 群馬県立近代美術館、宮城県美術館、朝日新聞社

協力 カトーレック株式会社

関連イベント

講演会

「宮城県美術館コレクションで編む近代美術史
—その魅力—

講師 加野恵子氏(宮城県美術館学芸部長)
日時 10月26日(日) 午後2時 - 3時30分
場所 2F講堂
* 申込不要、要観覧券

展示解説

「学芸員による作品解説会」

日時 9月28日(日) 午後2時 - 3時
10月15日(水) 午後2時 - 3時
場所 展示室1
* 申込不要、要観覧券

ワークショップ

「群馬県立女子大生によるワークショップ」
協力: 群馬県立女子大学奥西ゼミ

①「猫」の絵付け体験

日時 11月8日(土) 午前10時～/11時～
場所 アトリエ * 要申込/各回先着25名/参加無料
* 申し込み方法などの詳細はホームページをご覧ください。

② コラージュを楽しもう!

日時 11月8日(土) 午後1～3時
場所 アトリエ
参加費 無料 * 申込不要、参加無料

③ 選んで書こう! 好きな作品

日時 会期中随時
場所 展示室1及びギャラリー
参加費 無料 * 申込不要、要観覧券

同時開催

連続講座

インクルーシブアート研究 —美術館をだれもが楽しむために

①「違う視点を持ち寄ることで見えてくるもの」

講師 田中みゆき(キュレーター、アクセシビリティ研究、社会福祉士)
日時 9月21日(日) 午後2時～2時間程度
主催 群馬県立近代美術館
協力 ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会

②「美術館アクセシビリティ研修—いつでも、どこでも、だれでもアート鑑賞を楽しむには?」

講師 三輪途道(彫刻家)ほか
日時 10月30日(木) 午後2時～2時間程度
主催 群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふあん & 群馬県立近代美術館
協力 ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会

③「作家、当事者、触図制作者、みんなで一緒につくる触図(滋賀県立美術館コレクションの触図制作について)」

講師 吉川紀子(滋賀県立美術館エドゥケーター)、小川真美子(点字・触図工房BJ)
日時 11月2日(日) 午後2時～2時間程度
主催 群馬県立近代美術館
協力 ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会

※内容、
場所、申し込み方法
などの詳細はホーム
ページをご覧ください。



Resonant Painting:

響きあう絵画

宮城県美術館コレクション

カンディンスキー、高橋由一から具体まで

Masterpieces in the Miyagi Museum of Art Collection -from Kandinsky and Takahashi Yuichi to Gutai

響

広報用画像

1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.



Resonant Painting:
宮城県美術館コレクション
Masterpieces in the Miyagi Museum
of Art Collection and Takahashi Yūichi to Gutai
from Kandinsky and Takahashi Yūichi to Gutai
カンディンスキー、
高橋由一から具体まで

響きあう絵画

宮城県美術館コレクション カンディンスキー、高橋由一から具体まで

Resonant Painting: Masterpieces in the Miyagi Museum of Art Collection-from Kandinsky and Takahashi Yuichi to Gutai

広報用画像・読者プレゼント用招待券申込書 群馬県立近代美術館 広報担当 石原
TEL: 027-346-5560

FAX:027-346-4064 E-MAIL:bijutsu@pref.gunma.lg.jp

「響きあう絵画 宮城県美術館コレクション カンディンスキー、高橋由一から具体まで」展の広報用画像を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、上記FAX番号またはEメールにてお申し込みください。

貴社名：

ご担当者名：

貴媒体名：

E-MAIL：

TEL：

FAX：

掲載予定日：

読者用招待券： 希望する(5組10枚) 希望しない

招待券送付先：

ご希望の画像番号のチェック欄 に 印をお付けください。

- 1 ヴァシリー・カンディンスキー《「E.R.キャンベルのための壁画No.4」の習作(カーニバル・冬)》1914年 宮城県美術館蔵
- 2 長谷川湊二郎《猫》1966年 洲之内コレクション 宮城県美術館蔵
- 3 高橋由一《宮城県庁門前図》1881年 宮城県美術館蔵
- 4 松本峻介《画家の像》1941年 宮城県美術館蔵
- 5 海老原喜之助《ポアソニエール》1935年 洲之内コレクション 宮城県美術館蔵
- 6 安井曾太郎《少女像》1937年 宮城県美術館蔵
- 7 桂ゆき《婦人の日》1953年 宮城県美術館蔵

広報用画像の使用に関するお願いとご注意

この度は、「響きあう絵画 宮城県美術館コレクション カンディンスキー、高橋由一から具体まで」展をご紹介いただき、誠にありがとうございます。貴媒体にて本展の作品画像を使用される場合、下記の規定に基づいてご使用をお願い申し上げます。

- 1) 作品は全図で使用してください。トリミング、文字のせ等はお控えください。
- 2) ご使用の際は、必ずキャプションを記載してください。
- 3) 作品画像のご使用は本展の告知、批評を目的とした記事・番組に限ります。また、本展終了後の掲載、放送などは原則としてご遠慮ください。
- 4) デジタル画像は全てJPG画像で、メール送信いたします。
- 5) ご掲載紙・誌を1部ご寄贈いただけますようお願いいたします。